

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者が認知症介護について理解しており、方針が定まっている。その方針が理念に反映されていて、職員にも指導している。	○	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスを目指した内容の理念に作りかえていくこと。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、職員同士で話し合い、相談している。	○	今後も継続し、より良いサービスを提供したい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入居時に説明している。	○	説明だけでなく、HPで生活の様子を公開したり、行事（夏祭りや芋煮会等）に参加してもらったりしながら、家族や地域の方に理解してもらえるよう努めている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	犬の散歩の途中に立ち寄ってもらう、利用者が散歩に出かけた時にお茶に誘われる等、日常的なつきあいができている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	①自治会に加入し回覧板が回ってくる。②近隣に顔見知りがあり、散歩に出かけておしゃべりをしてくるなどの交流がある。③地元の行事に誘われ参加することもある。	○	今後は地域活動への積極的な参加やボランティアの受け入れなど、更に発展させたい。

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	以前、地区内の集まりに出て認知症の理解を高める講習会を開いた事がある	○	機会が減ってしまっているが、もっと地域に「出かけていく」努力をしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者から前回の外部評価の報告があり、改善や取り組むべき内容も話し合われた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の出席率は高く、毎回活発な意見交換がなされている。議事録はケア会議（職員会議）で発表され、ケアに活かすようにしている。	○	継続したい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者とは、小さな相談ごとでもできる関係にあり、自分の施設のことだけでなく、市内のグループホームが抱える問題点等についても検討しあっている。	○	市役所担当者は年度ごとにかわる可能性もあるが、とぎれることなく関係を良好に保ちたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	あまり十分とはいえない。	○	今後学ぶ機会をつくり、全職員が理解するようになりたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は行われていないが、言葉による暴力・虐待にあたるものが見過ごされているかもしれない。	○	法律について学ぶ機会をつくり、「人権」というものへの認識を更に高めなくてはいけない。

4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者への説明は十分とはいえないが、家族への説明については納得されるまで説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話の中で、利用者の希望や不満を耳にし対応しているが、あらたまった機会は設けられていない。	○	機会を設ける事も今後検討していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	①暮らしぶりについては、毎月定期的の手紙を書いて知らせている。②預かり金については、計算書・領収証を添えて個別に通知をしている。③家族等の来訪時は、管理者だけでなく職員も直接話しをして、日々の様子を伝えている。	○	家族等にとって疑問が残らぬよう続けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関しては、入居時に担当窓口を明示している。家族からの不安や不満な点は、その都度職員間で報告している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議の場を活用している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の配置は規定数ギリギリで柔軟な対応ができているとはいえない。行事の際は、十分な職員が確保できるよう努めている。		

18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職も異動も少ない。両ユニットの行き来が日常的にあるので、利用者への影響はほとんどない。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的な研修はあまり進んでいない。経験年数に応じて、資格取得の支援、認知症介護実践者研修の受講を勧めている。民間団体が主催する研修は、受講費用が非常に高い、会場が遠い等の理由で、なかなか受けられない。	○	非常勤スタッフの研修や事業所内での勉強会も今後は検討したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行われていない。研修先で情報交換などを行うことはある。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・可能な限り、本人の希望に合わせた公休が取れるようにしている。 ・福利厚生は充分とはいえなくとも期末の調整手当支給などがストレス軽減にもなっている。	○	職員の休憩場所が確保できるとよいと思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	「働きやすい場」であるよう気遣いはあるが、向上心を持って働くための取り組みは特別にはない。	○	このような取り組みも今後検討できたら良いと思う。

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に際して、本人からの相談は少なく、もっぱら家族との面談が中心である。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と職員が互いに相談や話し合いをするなどし、受けとめる努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャ等の意見もあるので、入居を前提とした支援が中心になってしまっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際して、本人の同意と納得を得るのはなかなか困難である。職員は本人が望まないままやむを得ず入居してきていることを理解し、時間をかけて居心地の良さを実感してもらえるよう働きかけをしている。	○	時間はかかっても、細かいことにも配慮したサービス提供に努めたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・掃除・洗濯物の始末など、日常生活上一緒に行えることは、互いに声をかけながら行っている。共に笑ったり怒ったりと表情豊かに過ごしており、一方的な関係にはなっていない。	○	「一緒に暮らしている」感覚を大事に今後も継続したい。

28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の出来事も機会あるごとに話して、暮らしぶりを家族にも実感してもらうようにしている。	○	信頼関係を築き継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の状態について、家族に報告・相談するなどして互いの理解を深めていけるよう努めている。	○	特に認知症が進行した時も、互いがより良い関係を継続できるよう支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの情報に頼りがちだが、うまく継続できている入居者もいる。なじみの方が事業所にたずねてくれる場合も多い。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	「気の合う者同士」の関係を大切にしたり、利用者間関係がうまく保てるように職員が仲介役ともなっている。	○	今後も継続したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	こちらから積極的にとはしないまでも、家族等から連絡があった時は十分な対応ができるよう心がけている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムを尊重するよう努めている。	○	介助が必要な方が外へ出るのは、職員の都合が優先されがちなので、できるだけ、本人の希望に沿うようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族からの聞き取りが中心である。利用者との普段の会話の中から知り得る事もある。	○	今後もこれまでの暮らしの把握に努めケアに活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	表情や会話、体調などをよく観察し、変化を見逃さないように努めている。	○	今後も利用者の心身の変化に素早く対応していきたい。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族とは相談している。利用者とは、普段の会話や様子を観察し計画に結びつく事柄を見つけている。	○	本人・家族等必要な関係者との話し合いを増やし、意見やアイデアをもっと取り込んでいく必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア会議の場などで、個別に具体的なケアの詳細を話し合っている。計画を文書にするのはいくらか遅れがちである。	○	本人の希望を聞き取るのは困難な面が多いが、家族等との話し合いは比較的スムーズに行われている。今後も状況の変化に即して柔軟かつ迅速に対応し、さらに文書化を徹底していきたい。

38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者が行ったことの記録はされているが、その時の感情についての記録もあるとケアの実践や計画の見直しに活かせると思う。	○	利用者の感情について具体的な記録を残すようにしたい。更に連絡ノート等も活用しきめの細かいケアに努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診、買い物などの介助を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	連絡はとれる状態にあるが、協力しあっているという程ではない。朗読、歌の会のボランティアは定期的に来訪している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ他サービスの活用は重度化した場合の退居後に限られている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ、実績はない。	○	今後検討し、幅広いケアが行えるようにしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等と相談しながら、利用者それぞれのかかりつけ医を受診している。		

44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>診断や治療は十分とはいえないが、相談にのってもらえる医師との関係は良い。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>訪問看護を利用している利用者があったときは協働できていたが、現在は無い。</p>	○	<p>気軽に相談できる医療関係者があれば心強いと思う。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時の連絡は密に行い、早期退院に向けた努力は十分に行えている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人の状態を家族ときちんと相談し、本人にとって最期をどこで迎えるのが一番良いかを決めている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>個々の事例により程度の差はあるが、職員間で重度化や終末期について検討し、ケアを統一する取り組みを行っている。</p>		

49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族との話し合いや情報交換は行っている。	○	話し合いや情報交換はあるが、さらに本人の精神的なダメージを最小限にするような取り組みを行いたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応には十分注意しているが、まだ徹底しているとは言い難い。	○	これで十分と満足することなく、より良いケアを目指したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の訴えや話しを良く聞き、出来る限り希望に沿った生活ができるよう取り組んでいる。	○	利用者が気持ちよく暮らせるようさらに一人一人の気持ちを大切にしていかなければならない。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべての利用者の希望に沿うのは難しい面もあるが、「これだけは」と思う点については、それぞれの希望を最優先する努力をしている。	○	主張の多い方と、自ら主張することができない方とでは、対応に差ができてしまいがちである。改善していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	全員ではないが、なじみの美容室や理髪店に定期的に通えるよう支援している。	○	自発的に整容できない方に対しては、職員の配慮がさらに必要である。

54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしいと感じながら食べ、満足感が得られるよう日々努力している。準備や後片づけに参加できる利用者は限られるが、それぞれ自分の役割を自覚し、力を発揮できるよう支援している。	○	今後も継続し、利用者それぞれが持っている力を発揮できるようにしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	寝る前の梅酒、乳酸菌飲料の購入、個人用のおやつを用意など、全員とは行かないが本人の好むものを楽しめるよう支援している。個別に家族から差し入れられる食品などもある。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導が必要な方に対しては、誘導を行い失敗を防いでいるが、誘導が遅れてしまい不快感を与えてしまうことがまだある。	○	たとえ忙しくてもきちんとトイレ誘導を行い、不快な思いをさせないようにする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助が必要な利用者に対しては、職員の都合が優先されてしまう場合もあるが、毎日の入浴を希望する人はちゃんと毎日入れるよう配慮し、気持ちよく入浴できるよう声掛けしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	項目通り行えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭への出入り、散歩等近隣への外出は自由に行えるようになっている。仲の良い利用者同士が互いの居室を訪問し合うような場面も見られている。		


60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として管理しているお金とは別に、自分の財布を持っている利用者が何人かいる。希望通りにお金を使うチャンスがうまくつくりていない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等近隣への外出は自由に行えている。商店が遠いため、買い物等目的をもった外出はなかなかできていない。	○	今後は、もっと外出する機会を積極的に増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日に職員と2人で外出することはあるが、それ以外の、お墓参り、親戚宅への訪問等はもっぱら家族の支援に頼っている。	○	今後はもっと外出の幅を広げ、生活に変化をつけていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があるが、使える方はごく一部である。使えない方に対しては、介助している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関は開放しており、出入りしやすくなっている。訪問者は多く、自然と訪問しやすい雰囲気ができている。	○	継続したい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が正しく理解しているとは言い切れないが、常識的に身体拘束は行われていない。		

66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、やむを得ないとき以外は玄関の施錠はせず、利用者も外来者も自由に出入りできるようにしている。	○	利用者の自由を大切にするためにも、今後も鍵をかけずにケアをする事を継続したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮しているが、中には充分とはいえない利用者もある。	○	職員間で常に声をかけあい、利用者の様子を把握し、安全に過ごせるようにしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症の進行やADLの低下に合わせて危険な物品は置かないようにし、安全を心がけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の原因を職員で話し合い、事故防止に努めている。事故報告書、ひやりはっとへの記入も必ず行うようにしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は行えていない。	○	今後訓練する機会を作りたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行っているが、いざという時にちゃんとできるかどうか不安はある。	○	地域の方への働きかけと、特に夜間時の避難方法は検討する必要がある。

72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	説明や相談している。全家族と十分に行っているとはまではいえない。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化に日々注意しており、対応は早い方である。情報の共有が十分とは言えないが、申し送り以外にも変化があった際には速やかに伝達するよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一人ひとりに職員が手渡しし、確実に服用したかを確認している。全利用者の薬の情報を1冊のファイルにまとめている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人的に便秘を予防する飲み物（乳酸菌飲料）を購入している利用者がいる。朝の体操への参加を促したり、水分を多くとってもらうなどの働きかけを行っている。	○	さらに、積極的に便秘を予防する働きかけを行っていく必要がある。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全利用者の口腔状態は把握できていない。介助が必要な利用者に対しては、入れ歯の管理や歯磨きの介助をしている。	○	自分で行っている利用者に対して、きちんと行っているかを把握し、必要に応じて援助し、口腔状態を確認することができると良いと思う。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厳密なカロリー計算等管理はしていない。おおまかな水分の摂取量はチェックし、脱水等の予防に努めている。	○	水分をとりにくい方は、飲みやすくするために味をつけたり、固形にしたり、代わりにプリンやヨーグルトにするなどの工夫をしている。今後もさらに工夫していきたい。

78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	うがい、手洗い、インフルエンザの予防接種がおこなわれているが、まだ十分ではない。	○	更に細かな取り決めを行う必要がある。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理道具を消毒している。特別な方法等は決めていない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は段差なく開放してあるため、出入りがしやすい。建物周囲にはお年寄りが出入りするので、車などに対して注意を促す看板を立てている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物を置いたり、季節の花を飾る等工夫してる。隣のユニットに自由に行き来でき、拘束感がない。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来できるので、玄関、玄関ホール、共有スペース（和室とホール）、ベランダなど好きな場所で過ごせている。一人になれるのは居室に限られるが問題はない。		

83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>一人ひとりが使い慣れた家具や好きなものを自室に置き、自由に過ごしている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>食堂はこまめに換気しているが、各居室には換気機能がないため、窓を開けるしかなく、十分対応できない場合もある。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置等、基本的な構造はさほど問題ない。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>各居室の表札等、ひと通りは整備している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先に椅子を置いて、日光浴をしたり、お茶を飲んだりできる。ベランダにも自由に行けるようになっている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・玄関の施錠はせず、敷地内はいつでも外に出ることができる。迷子の心配のない方は一人でも自由に近隣に散歩に出かけている。
- ・庭に花壇・畑があり、利用者も手入れをしたりしている。それぞれが伸び伸びと暮らせるよう、出来るだけ制限のないケアをめざしている。
- ・利用者の楽しみである毎日の食事に季節感を取り入れる工夫をしている。